

真の父母様と一つになって爆発的な勝利をおさめよう

「Japan TOP GUN College」に1200人

日本の全大学生圏を対象とした真の父母様主管 HJ 天苑 特別修練会「Japan TOP GUN College」(JTGC)が2月16日から25日までの10日間、韓国の清平聖地(HJ 天苑)で開催されました。修練会には、全国の教会やCARP、STFのメンバーのほか、韓国の鮮文大学・語学院の学生などおよそ1200人が参加(スタッフ約100人を含む)。「真の父母様主管」と銘打たれたとおり、真の父母様の大きな愛と恩恵の中で修練生一人ひとりが真の父母様と深い心情的因縁を結び、修練会のスローガンのごとく“孝情の光、全世界の希望”となることを決意し、新たに出発する機会となりました。

天正宮博物館で修了式

最終日の2月25日、真の父母様のご臨席のもと、天正宮博物館のチャペル室で修了式が行われました。

竹内啓晃・青年学生局長の司会で進められた修了式では、花束贈呈、代表報告祈祷、修練会のダイジェスト映像の上映のあと、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が開会の辞で、「皆さんは真なる指導者になりますか?」と問いかけると、修練生全体から「イエー!」と力強い声が返ってきました。

修練生の証しの時間は、鮮文大学の学生2人が修練会を通じて感じたことや真の父母様に対する率直な思いを吐露。女性修練生は涙ながらに「真の父母様の夢を成し遂げます」と誓いました。

続いて、修練生全体でこの日のために準備してきた歌や演舞を元気いっぱいに披露。「故郷の春」から始まり、「ホ



①「世界平和青年学生連合総会及び出征式」でみ言を語られる真のお母様 ②天正宮博物館の前で

ルロアリラン」、「み旨の応援歌」、そしてフィナーレでは修練生の代表者らが自らの“夢”を真の父母様にお捧げるマーチを行いました。

真のお母様はみ言では開口一番、「皆さんの熱烈なパフォーマンスを見ながら1960年代を考えました」と語られながら、お母様が聖婚された17歳当時のご心情を明かされました。

さらに、アダム・エバの創造、墮落から人類の復帰摂理

歴史に言及されながら、最後に「私があなたたち一人ひとりをすべて胸に刻んで私が霊界に行くその日、あなたたちと共に成したという喜びの心情を持って行きたいのです」と語られ、修練生全員にヘブンGバーガーと、男性にはネクタイ、女性にはスカーフをプレゼントしてくださいました。

修了式は、佐野忠國・本部大学生部長のリードで億万歳四唱を行い、閉幕しました。

修了式における真のお母様のみ言

あなたたちの精誠のこもった熱血あふれるパフォーマンスを見ながら、1960年代を振り返りました。私の年は当時17歳で、あなたたちよりも若かったのです。

天が私に大きな夢を与えてくださったことを悟るようになったので、「生涯において必ず天の父母様の夢を成して差し上げます。独り娘、真の父母、人類が待ちに待った真の父母が必ず成し遂げます」という変わらぬ心情で57年間過ごしてきました。

これから私たちが天の前に責任を果たすべく2020年を中心として(残された)3年を考えてみると、私がみ旨を抱いて一片丹心で歩んだ60年になることでしょう。

あの頃は真の父母の環境圏がとても微弱でした。数少ない食口たちだけだったのですが、今日、あなたたちが見ている今の時は、すでに国家を越えて世界の環境圏になっているのです。今日あなたたちが決意したみ旨を展開する上で、1960年に私が出発した当時と比べれば、あなたたちが見ている環境圏はすでに世界的になっているのです。アーヂュ。

* * *

私は一人で57年を歩んできましたが、あなたたちは1200人です。私と一つになれば、爆発的な力、結果を現わすことができるのです。

必ず国家の復帰、世界の復帰はあなたたちの手で行ってください。(アーヂュ)

私があなたたち一人ひとりをすべて胸に刻んで霊界に行くその日、あなたたちとともに成したという喜びの心情を持って行きたいのです。

あなたたちは天一国の勇士として、最後まで変わらない一片丹心、そのような勝利の一日を飾る日まで突き進んでいってくれるでしょう? 祝賀します! 祝福します。(一部抜粋)



- ①修了式でみ言を語られる真のお母様
- ②お母様に手を振る修練生たち
- ③力強いパフォーマンス
- ④元気いっぱいに歌を歌う修練生
- ⑤全体で記念撮影
- ⑥文妍娥 WFWP 世界会長
- ⑦トマス・ウォルシュ UPF 世界会長
- ⑧ロバート・キトル IAYSP 会長
- ⑨宣誓を行う代表



「世界平和青年学生連合総会及び出征式」に1700人

2月23日、HJ天苑の清心国際青少年修練院で「VISION 2020 勝利のための世界平和青年学生連合 (IAYSP) 総会及び出征式」が行われ、JTGC 参加者と韓国の学生、圓母平愛グローバル奨学生ら約1700人が集いました。

出征式で真のお母様は、人類始祖の堕落と復帰摂理に触れながら、「(堕落) 人間としては限界があります。宗教問題、思想問題、領土問題などは父母を知らないことから起こって来ました」と説明。「真の父母を中心として、私たちの夢を成しましょう。そのために皆さんは最高にならなければいけません」と激励されました。

出征式に先立ち、午前の特別講義では、尹錫鎬總裁秘書室・世界本部副室長、トマス・G・ウォルシュ UPF 世界会長、文妍娥 WFWP 世界会長のそれぞれから、真の父母様の摂理と各機関に対する願いが説明されました。

午後の講義では、IAYSP 会長に任命されたロバート・キトル・アジア特命総使が IAYSP の活動として、純潔運動について解説。韓国 CARP の文相弼会長、日本 CARP の本山勝道会長がそれぞれ、CARP の社会貢献活動の事例を紹介しました。

祝賀公演では、5組のグループがジャグリングをはじめ、歌やダンスを披露し、会場は大盛り上がりとなりました。



文善進世界会長が開会式で信仰指導

2月17日午前、文善進世界会長ご夫妻をHJ天苑の天城旺臨宮殿にお迎えして行われた開会式では、文善進世界会長が約2時間、参加者から様々な質問を受け、真の父母様のみ言やご自身の体験に基づきながら、一つ一つの質問に真摯に回答し、信仰指導されました。

最初に CARP の男子学生が「本当に神様に会いたい…。神様にどうやって出会えますか？」と涙ながらに尋ねると、文善進世界会長は「天の父母様はすべての場所におられます。まず自分自身の心を開かなければいけません」と優しく答えられる場面もありました。

また、真のお父様が聖とされて以降、真のお母様に5年間侍ってきた体験に触れ、「お母様の心は、まさに真

の愛です。お母様は、お父様の夢を成し遂げるために生きておられます」と証しされました。

文善進世界会長は「あなたたちが神様の希望です」「あなたたちが(メシヤの) 生きた証しなのです」などと訴えながら、二世圏の誇らしい価値を強調されました。

- ①開会式で修練生の質問を聞かれる文善進世界会長
- ②文善進世界会長ご夫妻(中央)からプレゼントを受け取った修練生
- ③講義を行う田中富広副会長
- ④講義に臨む修練生
- ⑤班ごとにディスカッションを行った
- ⑥聖地巡礼で訪れた野牧で
- ⑦漢南洞公館聖地を訪れた修練生
- ⑧日本教会の礼拝堂で

神様の恩賜に日々感動する生活をしよう

宋総会長ご夫妻が滋賀・彦根家庭教会を訪問



①彦根家庭教会の食口たち ②説教を行う宋総会長
③歌を披露する宋総会長ご夫妻 ④小谷山に登った宋総会長ご一行

2月19日午前、滋賀・彦根家庭教会に宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻を迎え、日曜礼拝が行われました。

金鍾烈教会長の司会で進められた礼拝は、聖歌讃美、家庭盟誓の唱和、代表報告祈祷、聖歌隊による讃美の後、^{キムジョンヨル}丁鍾植滋賀教区が「み言を通して総会長と一つとなり、熱い心でみ旨を頑張っていきましょう」と挨拶しました。

次に李海玉総会長夫人が登場し、「スイスにも勝るとも劣らない自然に囲まれて生活していて、なぜ感動しないのでしょうか。天地を創造された神様を近く感じながら、感動が体の中からあふれて『ウォー』と声が出るような生活をしなければなりません」と語りました。

続いて、真のお母様から授かった栗とキャンディーが、宋総会長ご夫妻とじゃんけんをして勝った食口たちにプレゼントしました。

宋総会長は説教で、「家庭連合時代を迎え、なぜ真の父母様が私を日本に遣わされたのかを思ったときに、『お前の背中にのって一緒にいる』と語られた真のお父様のみ言が思い浮かびました」と述べ、その場に真の父母様が霊的に臨まれていることを強調。その上で、「夢を夢で終わらせてはいけません。夢は成し遂げられるのです。真の父母様の願いと一つになれば、天の父母様の夢、真の父母様の夢、私たちの夢を成すことができます。私たちの家庭、氏族において天一国を実現できる時をすでに迎えているのです」と訴えました。

前日の18日、宋総会長ご夫妻は、戦国時代^{おだに}に小谷城があった小谷山に登り、深い祈りを捧げました。雪深く清められた城跡で長い祈りを捧げるお二人の姿に、同行した食口たちは真の父母様が共にいらしてくださっているような感覚を覚えました。

真の父母様だけが統一の基

徳野会長が川崎家庭教会で礼拝



①説教を行う徳野会長
②花束を受け取った徳野会長ご夫妻
③歌を披露するファミリー合唱団
④徳野会長の説教を聴く食口たち

2月19日、東神奈川教区川崎家庭教会で徳野英治会長ご夫妻を迎えて日曜礼拝が行われ、およそ150人の食口が集まりました。

礼拝は、代表報告祈祷の後、70人から成るファミリー合唱団が真の父母様の御聖誕を祝う「チュッカハムニダ」など2曲を力強く披露。続いて李殷徳教会長が「徳野会長が大きな恩恵と天運の爆弾を落として下さいます」と挨拶しました。

徳野会長の説教に先立ち、久江会長夫人が「皆様が健康に気を付けて、日々感謝と喜びと感動に満ちあふれて幸福に暮らせるようにお祈りします」と慰労の言葉を述べました。

引き続き、徳野会長は「信仰生活のアルパ（最初）とオメガ（最後）」と題して説教を行い、次のように語りました。

「家庭連合は何をもって価値観を統一するのでしょうか。たとえば『神の願い』『神のみ旨』という言葉一つとってみても、人によって解釈が違ってきます。何が正しいのか、何が間違っているのか知りたいならば、真の父母様に聞くのが一番です。

真の父母様のみ言は無限にあります。真の父母様の実体がもっと重要です。家庭連合の信仰のアルパもオメガも真の父母様です。真の父母様がどう思い、どう感じておられるのか——そこに善悪の判断基準のすべてがあります。私たちは、真の父母様という共通の存在があるから一つになれるのです。

お母様は『古い人であればあるほど、私と最後までこの道を行きなさい。それを条件として、私があなたたちを記憶し、霊界に行く。そうすれば、あなたたちが霊界において真の父母様の近くに來られるのです』とおっしゃいます。

私たちの信仰生活は最後が問題です。『終わりよければ全てよし』という諺もあります。

そのことを肝に銘じて、家庭連合の主流の道を最後まで全うしてください。主流の道とは、真の父母様の直下です。すべての食口が、晩節を汚すことなく、人生の有終の美を飾ることを願います」

この日の礼拝は終始、喜びと感動に包まれ、集まった食口たちが心をつなげて再出発する貴重な機会となりました。

“天の父母様が私たちの人生の主人”

李海玉夫人が三重、福井、岐阜を訪問



①説教を行う李海玉夫人（岐阜）
②二世青年と記念撮影（岐阜）
③岐阜城を訪れた李海玉夫人ご一行
④婦人食口とハグをする李海玉夫人（三重・鈴鹿家庭教会）

李海玉総会長夫人は2月、三重教区（12日）や福井教区（25日）、岐阜教区（26日）などを訪れ、大きな天運と真の父母様の愛を届けました。その中から、岐阜教区での特別礼拝の様子をお伝えします。

26日、岐阜家庭教会で行われた特別礼拝には250人以上の教会員が参加。武藤努岐阜教区長の挨拶の後、祝福二世の国際家庭のカップルが李海玉夫人に花束を贈呈しました。

李海玉夫人は説教で、信仰生活の本質について、次のように語りました。

「なぜ信仰生活を送るのでしょうか。私が願う何かを得るためではありません。自分がどんなに難しい状況に直面したとしても、それを克服できる力を得るために信仰を持つのです。」

人生を生きていく上で、苦しみを味わうことのない人はいません。苦しいとき、それを克服する人もいれば、あきらめる人もいます。信仰を持つ人であっても、信仰の本質を見つめることができないならば、挫折したり、あきらめてしまいます。

私たちが悩んでいる物事は、今から10年後、50年後においても悩むべき価値があるものなのでしょうか。そうではないでしょう。

天の父母様は、いまこの瞬間の『私』ではなく、永遠という基準で私たちを見つめておられます。何か願うことがあったとしても、いま重要でなければ天は与えられません。天の父母様は『どうすれば私の子女が霊的に成長し、肉身を脱いで霊界で私とともに永遠に暮らすことができるか』を目標にして、私たちを導かれるのです。

どんなに暗い夜を迎えても、必ず朝はやって来ます。皆さんが何かを切実に祈れば、それは必ず成されます。

私たちがみ言を聞き、天地人真の父母様と出会い、祝福を受けたその瞬間、天の父母様が私たちの人生の主人となります。天の父母様の方式で私たちを成長させてくださるのであり、私たちは何も恐れる必要はないのです」

昼食後、李海玉夫人は岐阜城までの登山コースを踏破。山頂にある岐阜城の天守閣で数分間、岐阜の発展と勝利の為に祝福を捧げました。

神様を中心とした“希望と挑戦” で夢を実現しよう

大阪で「Global Youth Festival 2017」



①全体で記念撮影
②アカペラを披露する青年グループ
③勇壮なよさこい踊り
④ロビーを彩ったキャップアート

2月12日、大阪府大東市内の会場で「天地人真の父母様御聖誕日記念 Global Youth Festival 2017 in OSAKA」（主催・第9地区成和青年部）が開催され、成和青年部の知人友人400人を含む約1300人が参加しました。

会場ロビーには、真の父母様の生涯路程や天一国青年宣教師、家庭連合平和ボランティア隊「U-Peace」の活動などを紹介する展示やアートカフェのブースが設置され、フェスティバルの雰囲気を盛り上げていました。

大会では、アトラクション、朱鎮台第9地区長の挨拶、国会議員の祝辞に続き、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長、徳野英治会長、田中富広副会長からのビデオメッセージを上映。青年に対する熱いメッセージに参加者たちは大いに刺激を受けました。

メインスピーチでは、東大と米ハーバード大学院を卒業し、社会の第一線で活躍している祝福二世のMさんが、天の父母様と真の父母様を証ししながら、「希望と挑戦」という大会テーマにふさわしいメッセージを贈りました。

その中でMさんは、神様を中心とした夢実現に向けて自らが実践してきた事柄を紹介した上で、真の家庭の価値の重要性を強調しました。

特に、Mさんの親子三代と氏族それぞれの集合写真をスクリーンに映しながら、「少子化のすう勢に反し、このままいけば日本の人口が半減する頃には、私たちの氏族だけで1億人を超えます！」というメッセージは、来賓の方々にも大きなインパクトを与えました。

引き続き、大学の舞踊団をはじめ、家庭連合内外の青年グループが様々なパフォーマンスを披露。夢と希望に満ちあふれた御聖誕記念大会となりました。

【参加者の感想】

■国会議員

大学生、青年がたくさん集まっていた本当に希望を感じました。家庭を大切に素晴らしい思想に基づいて家庭、社会、日本を元気に出来ると思います。きょう参加させていただいて良かったです。（国会議員）

■祝福二世（女性）

一人ひとりが本当に輝いていて、大学生のよさこいダンスも感動しました。社会で活躍している祝福二世のスピーチを聴いて、目標を立てることの大切さを実感しました。台湾に行ってきた姉妹の話は刺激的で、自分と同じくらいの年齢の人が世界のことを考えている姿を見て、自分の悩みがちっぽけに思われました。

2016 年度「全国成和合唱コンクール」

2月19日、東京都内の会場で合唱を通した心情文化活動の活性化をテーマに「2016 年度全国成和合唱コンクール」が開催され、発表者と聴衆を合わせて約 1000 人が参加しました。

今大会は、小学生・中学生それぞれにおける A 部門（課題曲＋自由曲の 2 曲の発表）、B 部門（課題曲か自由曲の 1 曲の発表）と、小学生・中学生・青年が合同でチームをつくり自由な形式で発表できるフリースタイル部門の 3 部門から成り、合わせて 20 チーム（小学生 11 チーム、中学生 7 チーム、フリースタイル 2 チーム）が発表を行いました。

【小学生】

最優秀賞：北東京合唱団（北東京教区）

優良賞（A 部門）：大分ジュニア合唱団（大分教区）

優良賞（B 部門）：南千葉教会学校（南千葉教区）

【中学生】

最優秀賞：南千葉成和学生合唱部（南千葉教区）

優良賞（A 部門）：West HJ Choir（西東京教区）

※金賞は小学生・中学生ともに最優秀賞をとった合唱団のみ。その他はすべて奨励賞。



北東京合唱団（小学生の部「最優秀賞」）



南千葉成和学生合唱部（中学生の部「最優秀賞」）

石川、北大阪、愛媛などで書写大会

2月8日、石川教区金沢家庭教会では、「書写講演会及び奉納式」を行われ、ゲスト 10 人を含む 40 人が参加し、今月のみ言を全員で書写しながら、1 か月間のみ言を中心とした生活をスタートをしました。

2月8日、大阪・守口市内の会場で北大阪教区主催の「第 37 回心の書写の会」が行われました。

高屋敷浩樹講師は「夢を持って志を立てる」と題して講演を行い、「夢を実現するためには、目標を具体的に設定することが大切です。人間の体は目標を設定するとそれに向かって働くようにになっています」とスポーツ選手の成功を例に挙げながら説明。また「目標には、個人の目的と全体の目的があり、全体の目的とは、より公的なことのために、誰かの

ために努力することです。書写で願い事を書く時も、このことを意識していけば、私たちの力も引き出され、願いは叶っていくのです」と語りました。

12日、愛媛教区松山家庭教会では、第 12 回「自叙伝 心の書写会」が開催され、350 人が参加しました。

書写会では、松山市在住の壮年が証しを行い、義理の両親との関係が改善されて、引きこもりの息子が働き始めた体験談を発表しました。



書写を行う参加者
(愛媛・松山家庭教会)

第 16 地区で合同礼拝・聖歌隊コンクール

2月19日、岡山家庭教会に矢野治佳伝道教育局長を迎えて、第 16 地区合同礼拝および教会聖歌隊コンクールが開催され、地区内の 15 教会と兵庫壮年部の聖歌隊 330 人が参加し、各教会にもネット配信されました。

合同礼拝では、矢野局長が「私たちは今どこにいるのか」と題して説教。私たちのおかれている時の重要性を強調しました。

午後の聖歌隊コンクールでは、それぞれ聖歌隊が自由曲を披露。格調高い映像やパフォーマンスを交えながら、時折会場全体で大きく盛り上がる場面も。真の父母様の御聖誕を祝う、心情文化の時間を共に過ごしました。



壮年の合唱隊

島根・松江家庭教会で「ファミリーフェスティバル」

2月12日、島根県松江市内で松江家庭教会主催の「2017 真の父母様御聖誕記念ファミリーフェスティバル」が開催され、地元議員や有識者を含む 360 人が集い、真の父母様の御聖誕をお祝いしました。

祝福二世の新婚カップルの司会で進められたフェスティバルは、青年バンドの伸びやかな明るい歌声と演奏で開幕。また青年のスピーチでは、悩みの中

で神様の愛を知り、親の愛の深さを知って成長していく内容が参加者に大きな感動を与えました。

佐野清志・第 11 地区長は特別講演で、真のお母様のみ言を紹介しながら、真の父母様をはっきり知ることによって、私たちが今をどう生きていくべきかを知らなければならないと訴えました。



フェスティバルの参加者



スピーチを行う若者

第 8 地区で高校生親子セミナー

2月11日、第 8 地区の守山研修センター（名古屋市）で、多田聡夫・本部家庭教育部長を講師に迎えて高校生を対象とした親子セミナーが開催され、19 組 44 人の親子が参加。学習や親子で行う様々なゲームを通して有意義な 1 日を過ごしました。

ユーモアあふれる多田講師の問いかけに高校生たちも元気よく応え、すぐに心を開きました。最後のプログラム「感謝の手紙」で親子が手紙を読み合う時には、アルバムを見ながら涙ぐみ、抱き合う姿も見られました。

参加者からは、「初めて知る母の心情、本音を聞いて、おいしい食事をして、ためになる話を聞くことができました。これからの目標も明確になりました」（高 1・男子）、「母親と 1 対 1 で向き合って話し合うのは初めてで、すごく楽しい時間でした」（高 2・女子）、「親としての反省がほとんどでした。天の願いに沿った親子関係を築けるよう、常に神の子女としての意識を忘れずに、親子の絆を深めていきたいです」（3 万家庭・母）といった感想が聞かれました。



セミナーに参加した親子